

アスノオト 信岡良亮 氏と元 地域おこし協力隊から学ぶ、持続可能な土壌づくり。
仕事と暮らしの関係を捉える《地域と共に学ぶ土壌づくり》、いまあるものとの関係を変えてみる《半径50cm革命の種探し》の全2回のワークショップを通じて、可能性を広げる地域づくり、退任後の自分らしい姿、未来の選択肢を探し求めていきます。

卒業してからを考える

協力隊の可能性を広げ、退任後の自分をデザインする。

1

Workshop

仕事と暮らしの関係を捉える
《地域と共に学ぶ土壌づくり》

2018年9月28日(金)10時-16時

会場：秋田県自治研修所 特別教室
対象：地域おこし協力隊の隊員
自治体職員

前半は、地域おこし協力隊という働き方を、“稼ぎ”“仕事”“暮らし”から振り返り、現状の活動と未来に思い描いている働き方を参加者同士で共有し、自らの立ち位置を理解するワークを行います。

後半では、協力隊は未来の働き方を目指す過程で現状の経験値を確認し、自分が求めるものを探すワークを行います。行政関係者は、協力隊とのコミュニケーションを振り返り、活動を支援していくために必要な施策などについて情報交換を行います。

2

Workshop

いまあるものとの関係を変えてみる
《半径 50cm 革命の種探し》

2018年11月22日(木)10時-16時

会場：五城目町地域活性化支援センター
(BABAMEBASE)
対象：地域おこし協力隊の隊員

地域おこし協力隊として地域で働くなかでできた、ステークホルダーとの関係性を第1回目で理解しました。

未来の暮らしに向けて関係性を作っていく際に、話すこと、聴くことなどコミュニケーションを工夫する必要があります。

話し方、聞き方、問い方を考えるワークショップを行いつつ、自らが動き出したくなる関係性づくりに取り組みます。

講師

信岡 良亮

Nobuoka Ryosuke

株式会社アスノオト代表取締役。

1982年生まれ。関西で生まれ育ち同志社大学卒業後、東京でITベンチャー企業に就職。Webのディレクターとして働きながら大きすぎる経済の成長の先に幸せな未来があるイメージが湧かなくなり、2007年6月に退社。小さな経済でこそ持続可能な未来が見えるのではないかと、島根県隠岐諸島の中ノ島・海士町という人口2400人弱の島に移住し、2008年に株式会社 巡の環を仲間と共に起業(現在は非常勤取締役)。

6年半の島生活を経て、地域活性というワードではなく、過疎を地方側だけの問題ではなく全ての繋がり関係性を良くしていくという次のステップに進むため、2014年5月より東京に活動拠点を移し、都市と農村の新しい関係を創るために2015年、株式会社アスノオト創業。

また、多数の地域おこし協力隊が受講するオンラインプログラム“地域共創カレッジ”にも携わっている。



地域おこし協力隊定着支援事業